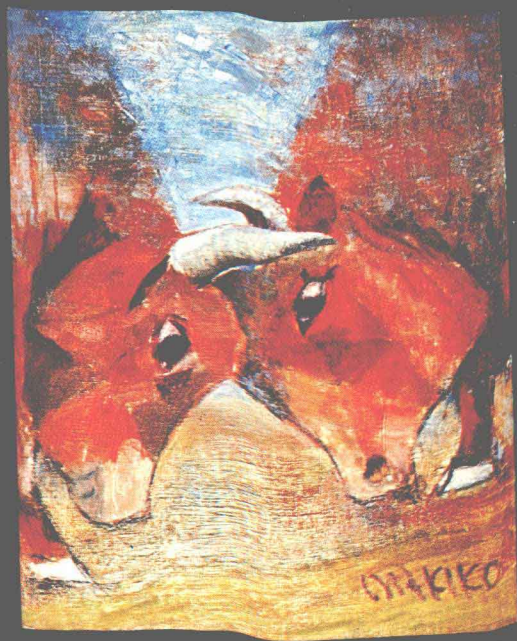


絵本部屋にて

奥田 継夫



絵本部屋にて

奥田継夫

奥田継夫（おくだ・つくお）

1934年（昭9）年、大阪に生まれる。同志社大学卒業。日本ペンクラブ会員。大阪文学学校で児童文学を担当。

著書 『ぼくちゃんの戦場』『日付のないラブレター』（理論社）『戦後三部作』『続いていた青い空』（PHP）『中学時代』（講談社）『夏時間』（偕成社）『かげぼうしがきえるとき』（大日本図書）『影ぼうしはどこへ行った？』（すばる書房）『泳ぐ夏休み』（アリス館）『短編集』『とりだす魚』（PHP）

絵本 『魔法おしえます』（偕成社）『星にいったパイプじいさん』（ポプラ社）

翻訳 『いえのなかを外へつれだしたおじいさん』『魔女たちのあさ』（アリス館）他

住所 大阪市北区堂山町 8—10 みーる内 ☎312・2626

終部部屋にて

1978年 5月15日 初版1刷発行

著者・奥田継夫

画家・司 修 他

発行者・瀬沢純平

発行所・株式会社編集工房ノア

〒531 大阪市淀川区豊崎 5—2—13 大淀ビル

電話 大阪06/37313641 振替 大阪306457

印刷・ファースト印刷 製本・左古製本

©奥田継夫 1978 不良本はおとりかえいたします。

――絵本の好きな人たちへ

I

ふうせんはいかが？

6

パイプじいさんラヴばあさん

14

白い魚の林

24

II

G

40

悪魔の絵本

50

牛突き

54

虫

66

III

蟬の場合

82

テンノウヘイカバンザイ。

100

絵

司
修

井上洋介

木村 茂

長 新太

武田秀雄

田島征彦

関屋敏隆

山口幸平

米倉斉加年

表紙絵 末広真樹子

I

ふうせんはいかが？

絵・司
修

まちかどで、

——ふうせんはいかがア？　ふうせんはいかが？

ふしぎなおばあさんがふうせんをうっていた。

子どもがかった。

わたしもかった。

わたしはふうせんをもって、かけた。

* 幼女



花はたけをかけるときは花の色。

はれた日ははれの色。

まちをかけるときはまちの色のよう、だんだんにそまった。

空をとぶときはもちろん、空の色。

空にうかぶと、ちっほけなわたりだった、大空をとぶことさえできた。

わたしはしらないことをすることがだいすきだった。

しらないということは新しい出会いがあるということ。

わたしはお父さんやお母さんとも、一人いても、どんどん、とんでいった。

ふうせんといっしょになり、昼になり、海になり……

・少女

大空をとぶことだけはだんだん、できなくなった。

雨の日は水のかみにむかって、もう一人のわたしとはなした。はなしていればわすれてしまうそのくらいの、さみしさ。

太陽よりも月がすきになり、月かげではねた。

ふうせんは月かげのレモン・イエローをうつした。

一人ではねていても、うまらないさみしさ。

* 乙女

わたしは電柱にこしをかけて、だれかのくるのをまつた。

電線にはふうせん玉をもった人がたくさんいた。みんなまるで、ツバメのよう……。

—— やあ。

ある日、あなたがやってきた。

—— はーい。

と、わたしはいった。

みつめあい、はなしあっているうちに、心はみち、まわりのふうせんが一つ、きえ、二つ、きえ、みえなくなりはじめた。

わたしはこわくなった。

——みえないの、わたし。

——ほくもだ。

二人はくるくる、おちた。

地めんになつと、いろんな色のふうせん玉をもった人がみえてきた。

とんでいるものはすくなかった。

——わたしたち、とべないのかしら？

——おとなになつたんだろう。おもくなつたんだ。ふうせんをふくらまそう。

——一、二、三！

二人はやつてみたが、あなたはとべなかった。

——こんなもの……。

あなたは糸をきつた。

わたしはめまいが、した。

わたしはとびあがつた。

月にむかつてとんだ子どものころのムーン・ジャンパーのように…。

——さようなら。あなた。

海がみえ、陸がみえ、そこにはふうせんをもった人もふうせんをもっていない人も、いた。

あなたのすがたも小さく、みえた。

*
女

空のむこうには空があり、空のなかには糸をきられたふうせん、ときにはふうせんをもった人もいた。

——はい。

わたしはいった。

——やあ！

と、かれはこたえた。

そんなときはならんでとんだ。

上になり、下になりして、とんだ。

空の上には星があり、星のむこうにはまた、空があった。

＊老婆

わたしはひとりぼっちになっても、もう、さみしくはなかった。

上にはふうせんとおなじ色の空があり、星があり、まわりにはおじいちゃんもおばあちゃんも、とんでいた。

わたしの心のなかには、はやいはなしが、ふうせん玉がいっぱい。

わたしはふうせんをうりに地上におりた。

まちかどで、

——ふうせんはいかが？

小さかったころのわたしのような子どもがたくさん、よってきた。

——ふうせんはいかが？　ふうせんはいかがア？

パイプじいさん ラヴばあさん

絵・井上洋介

おじいさんはパイプをくわえて、目をつむる。おもいだすのはパイプのことばかり。

はじめて、パイプをかったとき。

はじめて、おばあさんにあつたとき。

二人でいった外国旅行。

みやげにもらったかわったパイプ。